



御旅社七夕祭のご案内

茶屋町の御旅社では本年も左記の通り七夕祭を斎行致します。

日時 令和元年七月六日～七日

両日とも午後四時～午後十時まで

内容 短冊奉納(各色一枚百円)

場所 大阪市北区茶屋町十二番五号御旅社

※雨天斎行。荒天時(暴風警報発令時)は中止

なお、本年は日程が土曜、日曜日にあたっており、大変な混雑が予想されております。お参りの際、小さなお子様などをお連れの方はお気をつけ下さいませ。

船神輿の話

当宮では現在、氏子数の減少や、道路事情の悪化等により、例祭(夏祭)は神山町の御本社での神事のみとなっておりますが、戦前は氏子数も大変多く、街の世話役と呼ばれた方々が人手、資財もすべてイチから面倒を見て取り仕切られるなど、町衆あげてのお祭りとして、大阪有数の夏祭の一つに数えられていたようです。そのお祭りの中で特に有名だったのが船神輿というお神輿で、字の通り、船の上にお神輿が乗っているというとても珍しい形のお神輿でした。

これは今から一一一年前の明治四十一年(一九〇八)に新調されたお神輿で、当時の新聞にも

「今十五日、当市北野網敷天満宮夏祭あり。渡御には本年新調したる船神輿を曳き出すよし。船鉾、船地車はあり。船神輿とは珍し」と書かれており、当時の人から見てもかなり珍しいお神輿であったようです。

当宮伝承では天神さまはこの地から船で大宰府へと流されていかれたと伝わっており、その故事に基づいた意匠として船にお神輿を載せていたようで、まさに当宮ならではの「お神輿」でした。船首には立派な飛龍の飾りがあり、当時の当宮の規模を考えるとこれほどのお神輿を眺めるのは並大抵の事では無かったと想像され、当時の氏子の方々が当宮に寄せた心意気が伝わってくるような立派なお神輿でした。

しかし残念ながら先の大戦で焼失し、今では写真が一枚残るのみですが、先月、幼い頃このお神輿を見たという方が当宮にご来訪になられ、戦災から七十四年が過ぎた今も氏子の誇りとして心に残っておられるという事に、当時の人々の思いは今に生きている、そうしたお祭りのもつチカラに心打たれる思いです。

御旅社の狛犬 百歳

茶屋町の当宮御旅社の正面にあります狛犬。実は今月でご奉納頂いてからちょうど百年となります。大正八年(一九一九)七月に茶屋町・芝田町の氏子中から奉納された事が、狛犬の台座に彫られており、当時の氏子さん方からのご寄進のものという事がわかります。

実はこの奉納の前年、米価高騰による米騒動が勃発しており、またさらにその前年には芝田町で大きな火災が発生し、百二十戸が焼失するなどの事件があり、世相としては大変厳しい状況でしたが、茶屋町・芝田町の氏子の皆さんが、「苦しい時こそ助け合い、そしてその姿を神さんに見守ってもらって明日が良くなるように」という強い祈りのもと、ご奉納されたものといわれております。

この百年で茶屋町・芝田町は大きく変化しましたが、御旅社の狛犬さんはこれからも変わらず、御神前を守り、そしてお参りされる方、街を行き交う人々を見守り続けていきます。

今月の暦

【祭礼】

七夕祭(六～七日)：御旅社境内に笹を飾り短冊投与
例祭(十五日)：御本社 当宮で最も大切な祭 神事のミ
遣梅式(廿四日)：御旅社 天神祭関連神事 神事のみ

【節気】

小暑(七日)：…梅雨明け頃。セミが鳴き始める
大暑(廿三日)：…暑さ厳しき頃。暑中見舞いの時期

【雑節】

半夏生(二日)：田植え納め。縁起の良いタコを食べる
夏の土用(廿日～八月七日)：土掘りは縁起が悪い時期
土用の丑(廿七日)：…滋養の為にウナギ等を食べる
山開き海開き(七月上旬)：…安全を考慮しての時期

【大安】

七月八日、十四日、廿日、廿六日

【祝日】

海の日(十五日)

【旬】

【野菜】
枝豆、インゲン豆、キュウリ、ピーマン、生姜
【果物】
スイカ、パイナップル、メロン、瓜
【魚介類】
アナゴ、アユ、ウナギ(養殖)、ハモ、ウニ、タコ
【その他】
七夕の素麺、白蒸しまつり飯)、百合の花が見頃



網敷天神社 SNS、地図サイト

編著 網敷天神社

編集 網敷天神社 禰宜(御旅社 神主) 白 秀 知

